



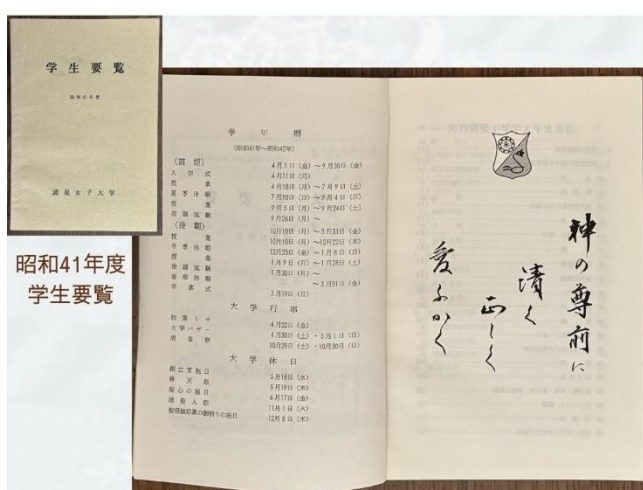
史料室だより

清泉女子大学史料室 Seisen University Archives

No.20

～神のみ前に清く正しく愛深く～

清泉女学院のモットー



清泉女子大学は 1950（昭和 25）年に「学校法人清泉女学院」のもとに設置され、その後 1973（昭和 37）年に「学校法人清泉女子大学」として独立しました。そして今年 2025 年 4 月に「学校法人清泉女学院」と合併し、再び学校法人清泉女学院に復帰しました。

そこで今回はあらためて、学校法人清泉女学院のモットーについて考えてみたいと思います。

学校法人清泉女学院（以下、清泉女学院）は「神のみ前に 清く 正しく 愛深く」をモットーとして掲げ、校章にもその意味が込められています。校章のデザインは楕円の形をなし、楕円の右側の清泉の頭文字「S」の字型にあしらわれた百合の花によって「清さ」を、楕円の形によって「正しさ」を、楕円の左側の「♡」が「愛」を表します。

清泉女子大学も 1993（平成 5）年まで清泉女学院の姉妹校と同じように「神のみ前に 清く 正しく 愛深く」をモットーに掲げていました。このモットーは「学生要覧」（学部・英文別科）では 1966（昭和 41）年度版から掲出され、「麗泉会々報」（卒業生同窓会の会報）では第 1 号（1964（昭和 39）年）から掲出されています（「神のみ前に」のフレーズは「麗泉会々報」第 1 号にはなく、第 2 号から見られます）。現在は「まことの知・まことの愛（VERITAS et CARITAS）」をモットーとして選択し、キャンパスの中庭にはそのモットーを記した石碑が置かれています。





ところで、清泉女学院のモットーの「清く 正しく 愛深く」のフレーズは、どこかで聞いたことがあるような…と思われた方も多いのではないのでしょうか。有名な某歌劇団のモットーが「清く 正しく 美しく」ですが、「清く 正しく」の部分が清泉女学院のモットーと共通しています。品位と芸術性を重視した興行を理念とする歌劇団創立者が劇場の落成時に「朗らかに 清く 正しく 美しく」と記した文章を残し、それがその歌劇団のモットーとして現在も受け継がれているそうです。

この「清く正しく……」について、気になって調べてみると、じつは使用例は意外なほど多く、キリスト教、仏教を問わず、また学校、一般を問わず様々なところで、この言葉が使われていることがわかりました。それほど私たちの生活の隅々にまで深く浸透した、ある意味で普遍性を持った尊い言葉だということですね。

今回の清泉女学院のモットーの調査結果を受けて、本学の元日本語日本文学科教授で史料室顧問の有光先生は、「清泉寮の校章が誕生した昭和 12 年に、俳人種田山頭火が自身の日記に次のように書いていたことなども思い合されますね」と一言。

……余生を清く正しく美しく生きませう。
酒を慎まう、自分を育てよう、ほんたうの山頭火を表現しよう。（種田山頭火の日記より）





1号館入口



講堂



本館2階広間



泉の間

ラファエラ・マリアセンター

「史料室だより」は清泉女子大学公式Instagramにて連載中です。